

ホームページへの掲載	
2月20日	掲載予定

岐阜県立恵那高等学校

学 校 長 瀬瀬 康雄
学 校 住 所 岐阜県恵那市大井町1023番地1 電話 0573-26-1311

- 1 会議の名称 恵那高等学校評議員会 (第2回)
- 2 会議の構成
- | | | |
|-----|-------|----------------|
| 委 員 | 伊藤 颯 | 地域住民、元県立高等学校教頭 |
| | 鈴木 素子 | 鈴木素子司法書士事務所 |
| | 高木 應浩 | 東栄製紙工業株式会社 社長 |
| | 蜂谷 明子 | 蜂谷医院 小児科医師 |
| | 古川 暉久 | 恵那高等学校PTA会長 |
- (委員名は五十音順)
- | | | |
|-------|-------|---------|
| 学 校 側 | 瀬瀬 康雄 | 校長 |
| | 高橋 俊和 | 教頭 |
| | 渡辺 昭夫 | 事務部長 |
| | 足立 幸司 | 教務主任 |
| | 磯部 徹 | 生徒指導副部長 |
| | 高橋 清仁 | 進路指導部長 |
| | 佐々木俊哉 | 理数科部長 |
- 3 会議の目的 学校運営について、地域住民や関係諸機関の代表者から幅広く意見を聞き学校改善を図り、地域全体からの支援・協力を得て、愛され信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成31年 1月29日(火) 13:00~15:45 恵那高等学校会議室
委員5人と学校側7人が出席
- 5 会議の概要 学校長より挨拶の後、理数科1年生SSL(スーパーサイエンスロジック)の取組と、前回予定していた授業見学が、警報発令による休校の為できなかったもので、1・2年生の授業を見学した。その後、平成30年度学校経営計画、教務部、生徒指導部、進路指導部、理数科部より、平成30年度の生徒及び保護者を対象としたアンケート結果の分析を中心に、今年度の成果・課題を報告した。最後に各委員の方々からの意見聴取及び意見交換を行った。

(1) テーマ 学校概要説明

学 校 長 本校の教育方針の究極の柱は、幸せな人生を歩んでほしいということに尽きる。10年後20年後の自分の未来を見据え、先が見えない現代社会であるがゆえに、広い視野をもち、社会に貢献できる人材を育てたいと考え学校運営を行っている。そのための方策として「恵那地球塾」を軸とした、海外に目を向け、グローバルな視点をもった生徒の育成。一方深刻化する少子化の時代の中で、ふるさとの良さを発見し、地域を元気にする活動をしている方々の生き方、魅力を学ぶ「恵那田舎塾」も始めた。キャリア教育の観点から、世界や日本という大きな枠組みで活躍する人材も輩出したいが、一方地元で活躍する人材の育成にも力を入れている。可処分所得など、具体的なデータを基に考えさせたい。

本校の特徴である探究型の学習では、課題発見能力、解決能力の育成に成果が表れている。例を挙げれば、国公立大学の推薦入試での合格者数は、毎年岐阜県の1位2位のレベルを保っている。

最後に中学生進路希望調査によると、本校の志望者数は増加している。「恵那高ニュース」という本校の取組みを紹介する広報紙を中学校に掲示したり、保護者に紹介することにより、本校の良さが周知されている結果と受け取っている。

教育目標・学校評価

(1) 7月に実施した生徒及び保護者を対象とするアンケートの分析を報告。ほとんどの項目で向上した結果となった。特に昨年度来課題として挙げられていた項目では、生徒、保護者ともにすべての項目で大幅に上昇した。また、教職員の項目でも対応、熱心さの質問にも高評価を得ている。特に向上率が高かったのが、ボランティアに関する項目で20%前後向上している。

課題としては、向上した項目がほとんどであるが、数値的には高いとは言えない。まだ改善の余地があるので、本日頂戴する意見等を参考にして、更なる改善を行いたい。

(2) 教職員のストレスチェックの結果、「職場環境のストレス」「仕事の裁量度」「働きがい」「同僚からの支援」については、全国平均を上回り好結果を得た。特に「上司からの支援」については良好の判定をいただいた。全国平均を下回る項目はなく、それぞれの教職員が生き生きと仕事に向き合う環境である。

教務部

45分7時間授業を行うことで、特に1年生については国語・数学・英語に重点をおき、また、進路希望別の選択授業による少人数授業など手厚い指導を行っている。このような授業を是非多くの保護者に実際見ていただき、本校の学習指導を理解していただく機会を作り出していきたい。また、総合的な学習に時間の充実、SSHを含めた探究型学習を一般教科にも浸透させていきたい。

今後の課題としては、課題及び小テストの出し方や分量について、生徒に過負担にならないように学年・教科横断的に検討していくことと、学力の多層化によるきめ細かい指導の実施、不登校傾向の生徒への支援体制などが挙げられる。

生徒指導部

生徒指導は全ての教職員で全ての生徒に対して行うものであるというスタンスで、組織的に指導に当たっている。特に悩みを抱えた生徒、発達障害をもつ生徒の増加により外部との連携を含めた教育相談的な機能をより一層充実させていくことが重要である。それに伴い、個別支援計画を作成して対応する事例が増加する傾向である。年3回のいじめ迷惑調査と年2回の担任との個別の教育相談が実施されているが、今年度は「いじめ」の事例が2～3件あがった。昨年度より「いじめ」の定義が広がったこともあり、今後も「いじめ」の事例はあがってくることが予想される。

学校祭の準備は、クラス活動も体育の部の軍団活動についても、生徒たちは限られた時間の中で工夫しながら行っている。「集団や社会の一員としてよりよい学校づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的態度を育てる」という点で本校では大きな意義がある。恵那高生が学校生活の中で一番大切にしている活動であるので、自己肯定感や自己有用感を養うことにも有意義である。また本年度からボランティア活動の充実を図るため、組織的な運営を始めた。昨年度と比較して参加者が大きく増加した。来年度も継続していきたい。「生徒の自主性を育て、将来の地域社会の一員としての自覚を深め、自らを活かす資質を育む」よう、諸活動の一層の充実を図ってきたい。

進路指導部

出口指導ではなく、将来を見据えた人材育成および生徒の自己実現を支援するため、体験的またキャリア教育的な視点を持った取り組みを充実させるよう心掛けている。将来を考察する際の機会として、高大連携事業や県・地域との連携事業、ボランティア活動等を多く紹介し、参加を促している。また、大学や学問を知るという観点からPTA主催の校内大学説明会を昨年度より拡大させて実施したところ、非常に好評であった。

大学入試を突破する学力習得のため、放課後補習や土曜自主講座を実施している。今年度は新たに3年生に対して、部活動を引退する時期の5月下旬の土日2日間、1日8時間勉強をする「集中勉強会」を実施した。多くの生徒が参加し、学習習慣の確立や達成感の享受、受験生への切り替えの一助となった。

新しい入試制度に向けては、英語の四技能対策としてGTECを年2回計画実施し、活動報告書に対しては、進路ノートの内容を改良することで対応している。また第1学年会と連携し、保護者研修会を開催し、来年度以降も計画的に実施したいと考えている。

理数科部

S S H事業は、科学技術系人材の育成を目標に実施されており、本校でも、課題研究、論理的思考力の育成、社会との共創を3本柱に取り組んでいる。しかし、昨今の全国のS S H指定校の取組状況はほぼ企画化の様相を呈しており、これまで先進的に取り組んできた本校のスタイルに類似してきている。この状況は、本校の長年の取組が本質的であったことを示すとともに、今後ますます学校の独自性を明確にしていく必要があることも示している。

しかし、課題研究と論理的思考力の育成が、S S H事業の本質であることには変わりはなく、これまでの取組を深化させて実施できるよう努力している。この教育活動を通して、見通しの立たない社会で最適解を見出す力を持ち、地域、日本、世界で必要とされる資質・能力を備えた人材を育成したいと考えている。

(2) テーマ 意見交換

- 意見 1 恵那高校に入学してくる生徒は、大半が大学等上級学校への進学を希望している。それに対応できる学力をつけることが大きな使命であると思うが、それにしっかり取り組んでいると感じた。併せて知育・徳育・体育にも力を注いでいる。世界や日本に羽ばたく人材、地域を支える人材輩出を大切にしていることが伝わってきた。
- 意見 2 探究活動を通して、生き抜く力、人間性を高める教育方針に共感し、授業の様子に感動した。そうした活動が口コミで広がり、徐々に周知され、恵那高校のイメージが変わってきていることを実感している。それが恵那高校への志望者の増加につながっている。高等学校でもアピール力が必要な時代になってきている。
- 意見 3 「恵那高ニュース」はA3という大きさをカラー印刷。とても目立ちインパクトがある。今後もそうした発信を続けてほしい。
- 意見 4 アンケート結果から大きくポイントを上げているボランティアについて、具体的にはどのような活動があるのか。
- 回答 地元の団体から依頼され、生徒に募集をかけている。代表的な活動では「RUN伴」。認知症の方々の伴走したり交流したりする取り組みだが、イベントの手伝いだけでなく、企画段階から運営に携わった。また部活動単位で依頼されることも多く、地域のイベントの司会や運営のお手伝いに放送部や演劇部、新聞文芸部や英会話部は、外国人観光客のためにガイドブック等の翻訳を行った。逆に本校からの仕掛けとして、教員志望の生徒を中心に中学校へ出かけ、授業の手伝いに入ったり、課題の質問に答えたりするミニ教育実習なども行っている。
- 意見 5 ディベートの授業を観せていただいた。仕事は日々ディベートだと感じているし、これからの時代を生き抜いていく者として大切な活動だと思う。今日の授業では、生徒が自分の意見をきちんとまとめ、論理的に述べている姿に感心した。これからもどんどんやってほしい。
- 意見 6 最近の子どもたちの中には、ディベートのような言語活動についていけない生徒や、表現力に乏しい生徒も増えている。いわゆる言葉を転がすことが苦手な子どもが多い。そうした生徒の理解も必要だと思うが、今日の授業を観る限り、よくやっていると感心した。
- 意見 7 授業を見学してみて感じたのは、先生・生徒どちらの発言に対しても、人の話をしっかり聞けていることは、まず素晴らしいと感じた。そこから話題が共有できていて、とても楽しそうに授業を受けているのが、とても印象的だった。
- 意見 8 不登校傾向の生徒や退学者に対して、分析や対策、また教師が勉強して対応してほしい。ハイリスクの生徒に対しては、個別の支援計画など、高校生になるまでの生育歴や経緯などニュースソースを活用し対応してほしい。医療連携も重要なので、推進してほしい。
- 意見 9 高校生の標準的な身長は、現在約140cmから180cmと大きく開いている。今日授業を観ながら教室を回らせてもらったが、机と椅子がすべて一律だった。しんどそうな姿勢で授業を受けている生徒も見受けられた。照度もやや低い。改善を検討してはいかがか。

回答 貴重なご指摘をありがとうございました。今まで学校としてあまり話題に挙がってこなかった部分でもあるので、多方面から検討してみたい。

意見10 先日同窓会で教員をしている人と話をした際、なぜ教師になったのかという問いに対して学生の時に素晴らしい先生に出会ったのがきっかけだったという話を聞いた。現在働き方改革が叫ばれており、先生方もしっかりと休養を取りながら、いい教育をしてほしい。幸い恵那高校では職員の雰囲気もよい結果となっているので嬉しい。やはり若い世代にブラックと思われない取り組みも必要だと思う。

6 会議のまとめ

率直で貴重なご意見を多数頂戴し、たいへん有意義な学校評議員会となった。ご意見の一つ一つが考えさせられる内容であり、今後の展開の具体的な指針となるもので、このご意見を活かす方策を考え実行に移していきたいと考える。また徐々に本校の発信が様々な方面に伝わり、本校を目指す生徒が増えたり、地域の信頼を取り戻しつつある現状も伺うことができた。学校評議員会をはじめ、多方面のご意見に真摯に耳を傾け、常に改良、改善の姿勢をもって学校を運営することの大切さを改めて痛感した。

本校の、総合的な学習の時間やSSHなどの探究的な学習、学校祭への取組、部活動、また今年度からより組織的な取り組みを始めたボランティア活動などは、他者と協働しながら、課題を発見・解決していく新学習指導要領や高大接続改革の趣旨を先取りしていると考えている。またグローバルな人材の育成を目指した「恵那地球塾」、地域の良さを地域愛を育む「恵那田舎塾」の取組にも大きな賛同を得、多様化する生徒にフィットした教育を今後も進化させながら提供したい。今後は、このような学びを通して、変化が激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら課題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな課題の発見・解決につなげていくことができるような資質や能力を育み、国や地域社会のリーダーを育成するよう、評議員の皆様をはじめ、多くの方々の意見を取り入れながら、全職員で協力し尽力していきたい。